

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

環境省の取組について

令和6年9月4日

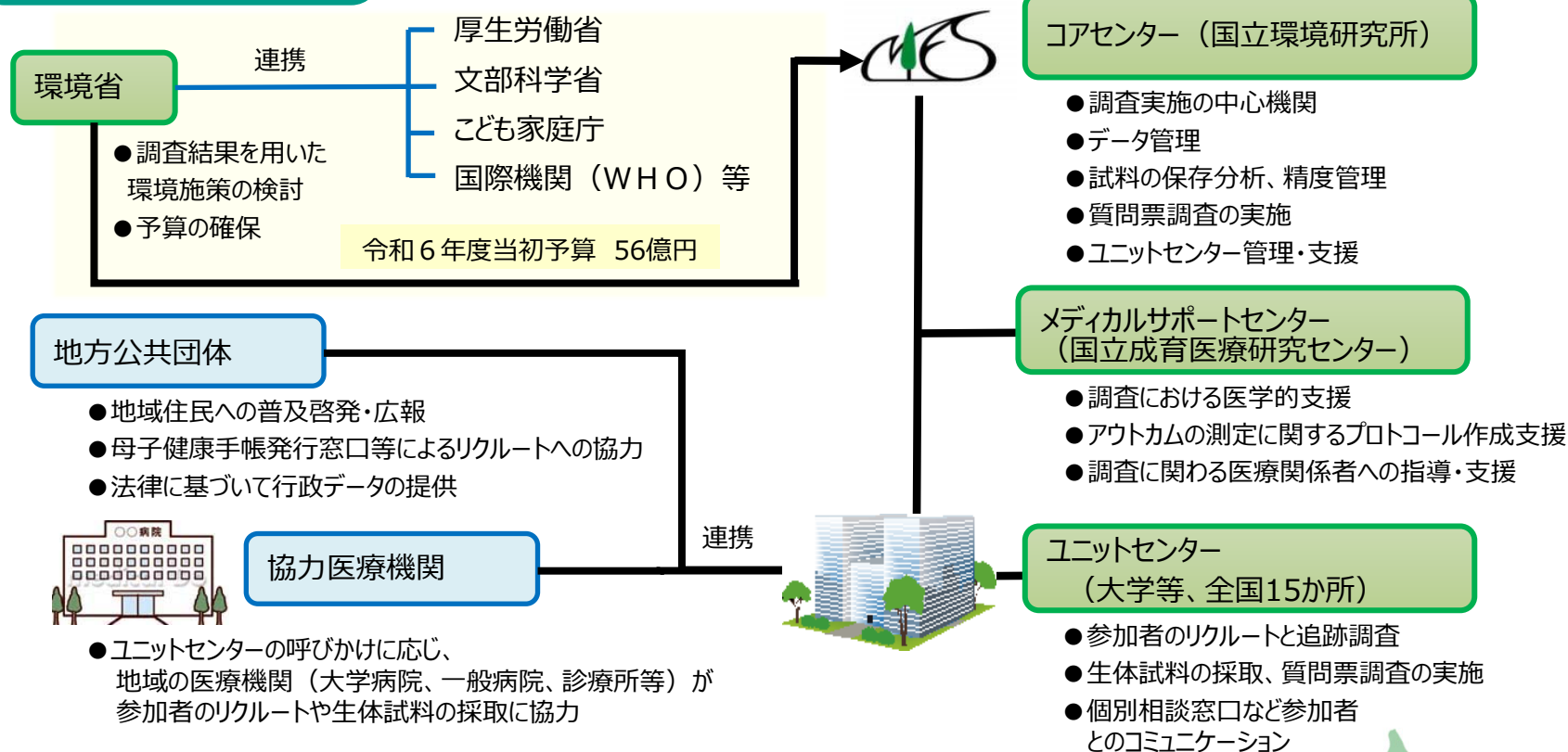
環境省 環境保健部化学物質安全課 環境リスク評価室



1. 実施体制
2. 運営体制
3. エコチル調査の予算
4. 政府戦略等におけるエコチル調査の位置付け
5. 企画評価
6. 国際連携
7. 広報活動
8. 倫理審査

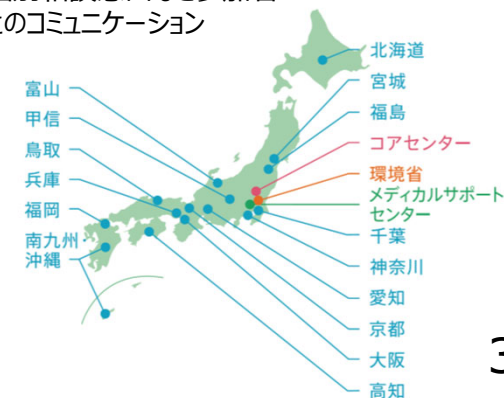
1. 実施体制

エコチル調査の実施体制



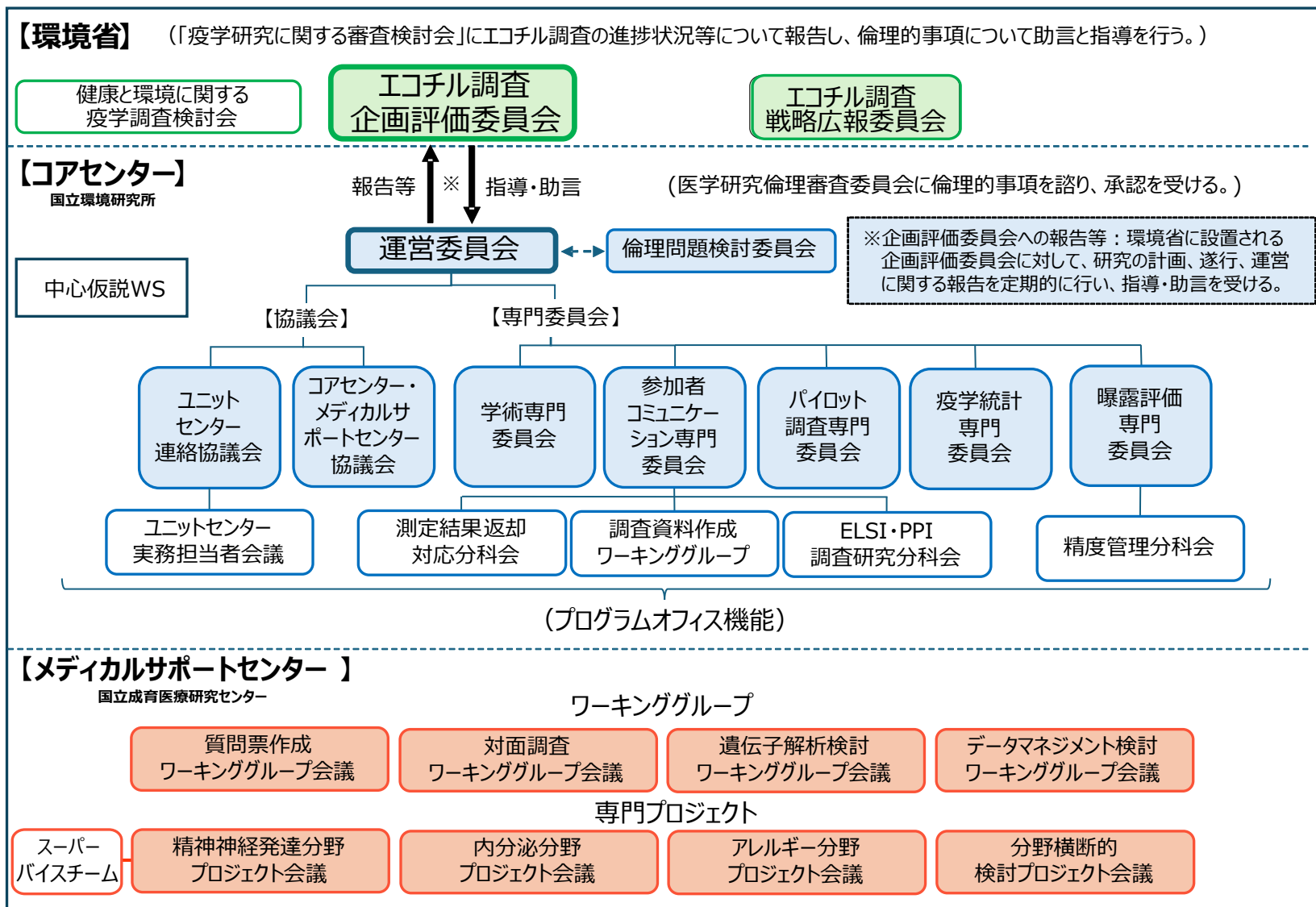
エコチル調査における環境省の役割

- 本調査で得られた成果等を用いた環境政策の検討
- 調査等を推進するための予算の確保
- 関係各省庁、国際機関等との連携
- 国民に対する広報
- 情報発信等の成果の社会還元



2. 運営体制

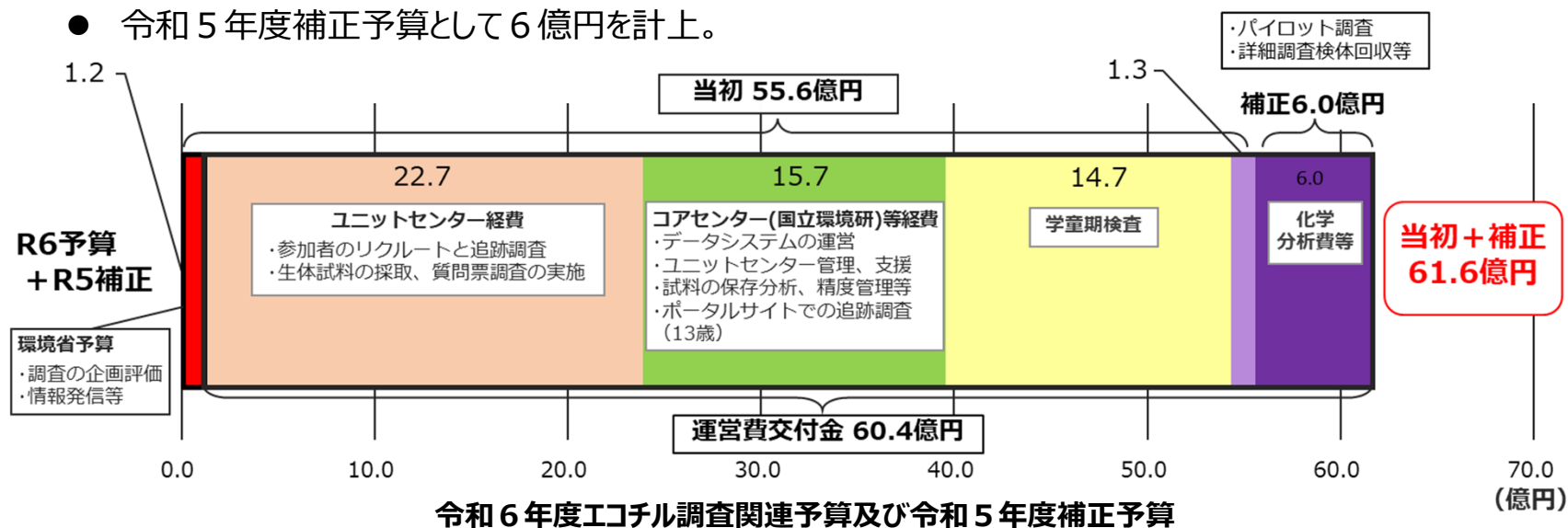
エコチル調査の運営体制



3. 予算

年度当初予算等

- 令和6年度当初予算：約56億円を計上。
 - 追跡調査、詳細調査（環境調査、医学的検査、精神神経発達検査）、成長過程における化学物質ばく露等を評価する「学童期検査」の継続、これまでに採取した生体試料の化学分析の実施、研究成果を社会に還元する「広報事業」、「地域の子育て世代との対話事業」の実施予算
- 令和5年度補正予算として6億円を計上。



【これまでの予算額】(億円)

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
当初予算	31	46	45	40	47	45	45	45	51	59	55	56	56	56	56
補正予算等	—	16	21	10	12	13	13	9	—	5	6	6	6	6	—

4. 政府戦略等におけるエコチル調査の位置付け

新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2024改訂版（令和6年6月閣議決定）

IX. 経済社会の多極化

1. 地方創生とデジタル田園都市国家構想の実現

（3）デジタル田園都市国家構想の前提としての安心の確保

④持続可能な地域経済社会の実現

（略）

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）を効率的・効果的に推進する。

こどもまんなか実行計画2024（令和6年閣議決定予定）

Ⅲ こども施策を推進するために必要な事項

2 こども施策の共通の基盤となる取組

（1）「こどもまんなか」の実現に向けたEBPM

（こども施策の推進に資するエビデンスの構築）

（略）

エコチル調査の推進

こども施策に関するデータの整備、エビデンスの構築を行うため、胎児期から小児期にかけての環境要因がその後の健康に与える影響を明らかにするための調査である「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」を着実に進める。得られた成果を、関係省庁や地方公共団体等に共有することで、ガイドライン・事業の策定・改定など関連するこども施策につながることを期待される。【環境省】

※こども大綱（令和5年12月閣議決定）に基づく

第六次環境基本計画（令和6年5月閣議決定）

第1部 環境・経済・社会の状況と環境政策の展開の方向

第1章 環境・経済・社会の現状と課題認識

4 環境面の主に30年の振り返りと課題認識

（5）環境汚染及び化学物質管理の変遷と課題

（略）国際的には、化学物質が健康に与える影響の解明に資する疫学調査がいくつかの国で実施されており、我が国において約10万組の親子に協力を得て実施されている「エコチル調査」は、大規模疫学調査として、その成果の活用が期待されているところである。

第3部 環境保全施策の体系

第1章 環境問題の各分野に係る施策

5 包括的な化学物質対策に関する取組

（2）情報に基づく意思決定と行動を支援する知識・データ・情報が作成され利用が可能となりアクセスできる状態の確保

③ ばく露モニタリング

各種モニタリング等の効率的な利用を図る。具体的には、環境中の化学物質等の環境要因が子どもの健康に与える影響を解明することにより、適切なリスク管理体制を構築し、安全・安心な子育て環境の実現につなげることを目指し、約10万組の親子を対象とした大規模かつ長期の出生コホート調査を着実に実施する。

（3）懸念課題への対応

人の健康の保護の観点から、その目標値や基準、管理の在り方等に関し国際的にも様々な科学的な議論が行われ、社会的に関心が高まっているPFASについては、引き続き「エコチル調査」において健康影響に関する知見を集めるとともに、一般的な国民のばく露状況の経年変化等を把握するための血中濃度調査や環境モニタリングを実施する。（略）

5. 企画評価（令和5年度の取組）

企画評価委員会における検討

- 企画評価委員会においてエコチル調査の企画評価の事項に関する検討。
（企画評価委員会の下に設置する評価ワーキンググループで年次評価書案を検討。）

委員会・ワーキンググループ	検討事項
令和5年度第1回企画評価委員会 （令和5年9月13日（水）開催）	● エコチル調査の実施状況について報告 ● エコチル調査の第四次中間評価について
令和5年度評価ワーキンググループ （令和6年1月17日（水）開催）	● 第四次中間評価書案の作成 ● 令和6年度年次評価方法の検討
令和5年度第2回企画評価委員会 （令和6年3月6日（水）開催）	● エコチル調査の実施状況について報告 ● エコチル調査の第四次中間評価書について ● エコチル調査の令和6年度年次評価について ● 生体試料分析対象物質候補（令和7年度）について了承

5. 企画評価（令和5年度の取組）

エコチル調査実施機関の評価

- 各調査実施機関による自己点検を実施し、実地調査等により評価に資する情報を収集し、企画評価委員会において検討。各機関（環境省、コアセンター、メディカルサポートセンター、ユニットセンター）を評価。

令和5年度企画評価委員会（第四次中間評価）

第1回企画評価委員会
【評価方法の確認】

令和5年9月13日（水）開催

評価ワーキンググループ
【評価案の作成】

令和6年1月17日（水）開催

第2回企画評価委員会
【評価の確定】

令和6年3月6日（水）開催

実地調査（環境省）

【評価対象となる情報の収集】

令和5年8月31日（木）～12月15日（金）実施

複数の評価視点に基づき、実地調査を行う。

- ・ フォローアップの進捗状況
- ・ 詳細調査の実施状況
- ・ コミュニケーション活動
- ・ 個人情報管理の状況 など

収集した
データを
報告

エコチル調査実施機関への支援

- 調査現場における様々な課題の解決を支援するため、年次評価で収集した「PDCAサイクルに基づく優良な取組」を好事例集として取りまとめ、ユニットセンターに配布。

6. 国際連携（令和5年度の取組）

国際連携に係る取組

- 環境省においては各国の大規模出生コホート調査との連携等の政策的な国際連携を推進。
（※国際連携に関する学術的な取組は、令和3年度に国立環境研究所エコチル調査コアセンターに移管。）
- 現在の主な取組として、「環境と子どもの健康に関する国際作業グループ」に支援・参加。

環境と子どもの健康に関する国際作業グループ

(Environment and Child Health International Group : ECHIG)

- 目的：** メンバー間における情報交換、研究プロセスのハーモナイゼーションにより、調査手法の比較、データ統合解析調査結果の複合解析（combined analysis）、データ・プーリングの手順を開発すること
- 参加者：** 日本、ドイツ、ノルウェー、デンマーク、フランス、中国、米国の大規模コホート調査等に所属する専門家
世界保健機関（WHO）の国際がん研究機関（IARC）が事務局として参加
- 取り組み：** 隔月でWEB会議、年1回対面会合を開催等

第18回対面会合	日程：令和5年11月14日～15日 場所：フランス・リヨン
第19回対面会合 （予定）	日程：令和6年11月21日～22日 場所：フランス・リヨン



出典：<https://governance.iarc.who.int/>

7. 広報活動（令和5年度の取組）

- 【目的】 調査対象者や医療機関・研究者に加えて、広く一般の方々にエコチル調査を理解してもらい、調査参加者に長期にわたる追跡調査に継続して参加してもらえるような意識を醸成すること及び調査成果の正確な情報発信・社会還元を図る。

シンポジウムの開催

- 最新の研究成果や今後の展望等の紹介を通じて、国民のエコチル調査への理解を促進すること、参加者の継続意識の向上につなげることを目的として、年1回、シンポジウムを開催。

令和5年度	■ 令和6年2月18日（日）に第13回シンポジウムを開催 ■ 会場参加とライブ配信のハイブリット開催 ■ 当日来場人数62名（小学生以下12名）、最大同時視聴者数（ライブ配信時）123名、2月26日時点の視聴回数521
令和6年度	■ 第14回エコチル調査シンポジウムの開催（予定） ■ 日時：令和7年1月または2月、開催方法：検討中



エコチル調査の成果の情報発信

（出産・子育てに関する情報メディアとのタイアップ）

- 妊娠・育児期の方やその関係者等を対象に、エコチル調査の成果等に関する分かりやすい記事を作成、WEBサイト（たまひよWEB版）に掲載（令和5年度：計3回）。

掲載日	記事タイトル・URL	ページビュー数
令和6年 2月5日 ～3月4日	「湿疹」「アトピー性皮膚炎」… ●●生まれは要注意!? 生後6カ月までの「季節」と「発症」に関係があるって本当?【エコチル調査より】 https://st.benesse.ne.jp/ikuji/content/?id=184225	29,632
令和6年 2月13日 ～3月12日	“気になる研究結果” 妊娠前からの「朝食抜き」習慣が、妊娠糖尿病につながるかも!?【エコチル調査より】 https://st.benesse.ne.jp/ninshin/content/?id=184243	20,775
令和6年 2月16日 ～3月15日	出生体重に影響も…「少なすぎも多すぎもダメ！」赤ちゃんの成長にちょうどいい「たんぱく質」量って?【エコチル調査より】 https://st.benesse.ne.jp/ninshin/content/?id=184731	25,395



※不許転載（2次利用はご遠慮ください）



7. 広報活動（令和5年度の取組）

地域の子育て世代との対話

【目的】子育てに関わる関係者が化学物質のリスクについて対話し、寄り添い支え合う環境を作る、いわゆるリスクコミュニケーションを行うことにより、化学物質のリスクについて向き合うことが可能な機会が広がり、上手に向き合うことが可能となる社会を目指す。



（1）地域における対話の実践例の創出

- 地域での**双方向性の対話**の実践を通じ、子育て世代等と化学物質のリスクとの上手な向き合い方の実践活動を促進。

（2）好事例集の更新

- 効果的な地域対話の取組の横展開に資する**事例集**に事例を追加。

（3）対話事業に関する研修手法の開発

- ユニットセンター担当者に対する**リスクコミュニケーション研修**の開催。

（4）成果紹介パンフレットの更新

- エコチル調査に関係する化学物質やその健康影響の一般的な内容や、エコチル調査の研究成果をわかりやすく伝えるパンフレットを更新。

日程	場所	対象 (人数)	講師等 (敬称略)
1/27 (土)	山梨県 身延町	教育 関係者 (8名)	篠原亮次、三宅邦夫 (エコチル調査甲信ユニットセ ンター) 協力：文珠紀久野 (山梨県立大学名誉教授)
2/11 (日)	大分県 大分市	小中学生 (17名)	井上高教 (大分大学理工学部教授) 辻真弓、菅礼子 (エコチル調査産業医科大学 サブユニットセンター) 協力：体験型子ども科学館 O-Labo
2/17 (土)	東京都 千代田区	教育 関係者 (5名)	大矢幸弘 (エコチル調査メディカルサ ポートセンター) 森田和良 (文京学院大学人間学部児 童発達学科特任教授)

7. 広報活動（令和5年度の取組）

13歳以降の調査の準備

- 調査の概要や継続の意義等に関する動画を作成、配信。
- 令和5年7月にエコチル調査実施機関に配布、同9月からYouTubeの環境省動画チャンネルにおいて公開。



【エコチル調査ってなんだろう？～13歳以降の調査に向けた環境省からのメッセージ～】

<https://youtu.be/oxH7oFISW30?list=PL9Gx55DGS7x6yKKb96NZGo0XmEJ73MMJ0>

- その他、エコチル調査の概要を解説したパンフレットの更新・配布など。



関係機関等との連携・情報共有

- 成果に係る報道発表やエコチル調査に係るシンポジウムや企画評価委員会の開催情報等を、関係行政機関や関係学会に情報共有。

◆ 関係行政機関：

内閣府、消費者庁、こども家庭庁、文部科学省、スポーツ庁、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省内

◆ 関係学会：

（公社）日本産科婦人科学会、（公社）日本産婦人科医会、
（公社）日本小児科学会、（公社）日本小児保健協会、
（公社）日本小児科医会、（一社）日本小児期外科系関連学会
協議会、（一社）日本学校保健学会

- 関係機関等との連携としてエコチル調査の概要や成果等について講演。

令和5年4月21日 令和5年度地方公共団体化学物質対策担当
者説明会

令和5年10月23日（月）～11月27日（月）講演動画公開期間
ケミカルマテリアルJapan2023-ONLINE-

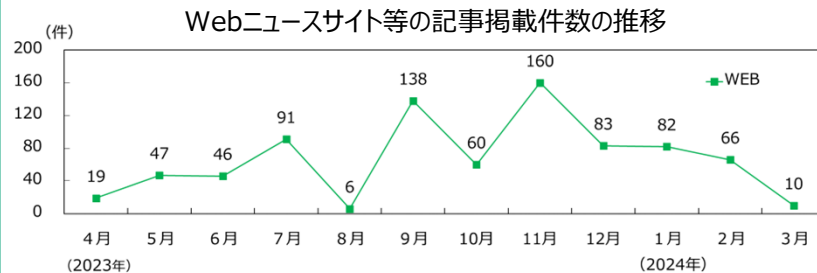
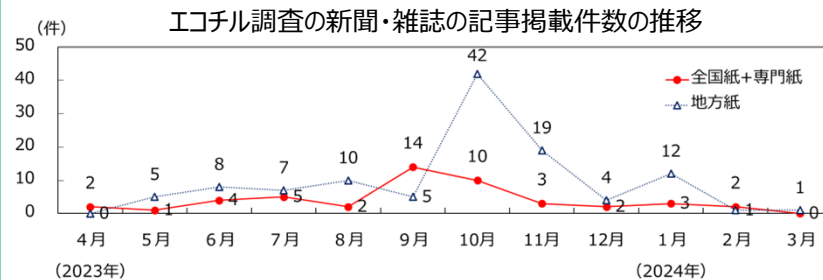
令和6年3月15日 第8回アレルギー疾患対策関係省庁連絡会議

7. 広報活動（令和5年度の取組）

広報活動の効果測定

（1）Webニュース・新聞・雑誌・テレビモニタリング

- Webモニタリング（ニュースサイト等）、新聞・雑誌・テレビ記事検索により、エコチル調査の露出度を測定。
- 令和5年の件数（令和5年4月1日～令和6年3月31日）
新聞・雑誌：162件 / テレビ：0件 / Webサイト：808件



（2）SNSモニタリング

- 令和5年度より、X（旧Twitter）の全公開ツイートから、「エコチル」、「子どもの健康と環境に関する全国調査」を含むツイート、リツイートを抽出。
- 令和5年の件数（令和5年4月1日～令和6年3月31日）
エコチル調査に関するツイート件数：624件※
※リツイート数を除いた件数

（3）認知度状況等の把握

- 国民や医師を対象としたWEBアンケート調査により、エコチル調査の認知度状況等を把握。

	一般国民	医師
調査概要	調査期間：令和6年2月22日（木）～令和6年2月28日（水） 調査対象：20歳～69歳の男女 回答者数：4,983人 調査地域：47都道府県 ※エコチル調査の対象地域がある18道府県と、その他の1都28県で調査	調査期間：令和6年2月22日（木）～令和6年2月26日（月） 調査対象：医師 ※日経メディカルOnlineの医師会員 回答者数：900人
結果概要	■エコチル調査の認知度 全国：7.0% 調査対象地域：7.7% 調査対象地域外：7.5%	■エコチル調査の認知度 全国：47.9% 調査対象地域：51.3% 調査対象地域外：41.9% ■調査を重要と考える人 84.1% ■調査に興味・関心がある人 68.1%

7. 広報活動（令和5年度の取組）

その他の取組

報道発表等の実施	- 論文発表時に、大学や国立環境研究所が報道発表し、環境省のホームページでも情報を公開。 - 正確な情報伝達のため、平成30年度に戦略広報委員会で報道発表のプロセスと資料の様式、チェックリストを作成し、関係者に周知して運用。
ホームページ等による情報提供	- エコチル調査の論文を一般向けにわかりやすく伝えるため、平成30年6月から和文抄録付きの成果発表一覧を掲載、随時更新。 - 中心仮説に関する論文の報道発表は、新着情報としてトップページに掲載。 - シンポジウムの動画や資料、対話事業の資料を掲載。 - ホームページのアクセス数を集計し、戦略広報委員会で広報戦略の基礎資料として活用予定。
エコチル調査サポーター登録	- 調査に対する社会全体の理解と応援を得る目的で、サポーター登録制度を設け、登録していただいた方には最新情報を掲載したメールマガジンを配信。 - 令和6年3月現在、サポーター数は3,560人、メールマガジンは通算109号。
展示物の活用	- 調査の認知度向上と内容理解促進を目的に、全国の科学館に貸出。 - 調査対象地域等においてエコチル調査関係者へ展示物の貸出。 - 令和5年度貸出数：科学館2箇所、ユニットセンター等1箇所。



8. 倫理審査

- 令和5年度の「第1回疫学研究に関する審査検討会」で、国立環境研究所エコチル調査コアセンターが調査の進捗を報告。
- 本年度も、「疫学研究に関する審査検討会」において、エコチル調査の進捗状況等について報告を行った。